

# 令和4年度 自己評価報告書

令和5年3月  
岐阜県立下呂看護専門学校

## 1 本校の基本理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う、専門職業人を育成します。

## 2 令和4年度組織（所属）目標及び実績

### 1) 新・旧カリキュラムの適切な運用

- ①新カリキュラム（1年生）の学科運営（目標到達度 100%）
- ②旧カリキュラム（2・3年生）の学科運営（目標到達度 100%）
- ③学生への時間割発表は前月1日までに提示（目標到達度 90%）
- ④カリキュラム検討委員会（5回/年）
- ⑤科目評価（3回/年）

### 2) 職員間の学びあいによる教育実践能力の向上

- ①職場研修（11回/年）
- ②教員の研修参加率 100%（受講研修数 31）
- ③伝達講習会実施（目標到達度 75%）
- ④教員間の授業参観 20回/年（計画 19回）
- ⑤教員の授業研究 4題/年（計画 3題）
- ⑥教員ペア制の導入と実施（教員の肯定的意見 75%）

### 3) 在校生・受験生・卒業生のニーズに合わせた支援の充実

- ①ホームページの適時更新（20回/年）
- ②担任・副担任による個別面談（定期・適時）
- ③担当教員制による国家試験の学習支援（3年生 18名を教員 8名で担当）
- ④学生意見箱の設置と対応（4件）
- ⑤お悩み相談箱の新規設置：男子・女子更衣室（1件）
- ⑥こころの相談室の開催（隔月→毎月）
- ⑦外部相談窓口の紹介
- ⑧学生生活実態調査（2月）
- ⑨受験生アンケート（10月、1月）
- ⑩卒業生交流会（3月、卒業生 14名参加）

#### 4) 業務マネジメントとワークライフバランスの推進

- ①所属共有フォルダの自己点検（毎月）、責任者による点検（8月、1月）
- ②職員会議、教務会議、毎朝のミーティング時に時間外削減、年休取得推進の呼びかけ
- ③3カ月毎の休暇取得計画表を用いた計画的休暇取得の推奨
  - ・年次休暇 一人平均12日7時間（目標到達度107.5%）
  - ・夏季休暇 全員4日取得（目標到達度100%）
- ④時間外勤務管理表を用いた時間外勤務マネジメント
  - ・時間外勤務管理表による自己マネジメント（毎月）
  - ・一人平均時間外勤務時間数（昨年度より25.5%減）
- ⑤業務改善委員会（提案9件、改善8件）

### 3 評価項目の達成および取組状況

#### 1) 学校経営

資料1～11

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。</li> <li>・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。</li> <li>・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。</li> <li>・管理職のリーダーシップのもと、係長が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。</li> </ul>	4.6

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分

- ・前年度の組織目標の評価結果を教職員に伝え、次年度の組織目標設定に教職員の意見を取り入れた。
- ・組織目標は職員会議で職員に周知し、組織目標を意識して業務を遂行するよう働きかけた。
- ・10月、2月に組織目標、委員会・係活動目標を評価した。結果は職員会議等で共有し課題について検討した。
- ・学校運営評価は9月、2月に実施し、職員会議で共有後、ホームページに掲載した。
- ・毎月、職員会議、教務会議を開催し、現状報告、課題、行事計画・評価等について共有した。
- ・学校運営上の課題に対し、適宜運営会議を開催し対応について協議した。

#### 【課題】

- ・組織目標、委員会・係活動目標等の達成に向け、計画に基づいた活動を行う。

#### 【対策】

- ・組織目標、委員会・係活動の目標及び計画を意識し、取り組み状況のチェックと実施結果の共有を行う。

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時に持つべき資質をディプロマポリシー、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。</li> <li>・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。</li> <li>・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。</li> <li>・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。</li> <li>・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。</li> <li>・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。</li> <li>・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。</li> <li>・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。</li> <li>・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。</li> <li>・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。</li> <li>・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。</li> <li>・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。</li> </ul>	4. 2

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・シラバス、実習要綱を整備し、学生に十分説明したうえで授業を行った。
- ・学生への時間割の公表が概ね1カ月前に行えた。
- ・カリキュラム検討委員会（5回/年）を行い、新カリキュラム運用上の課題について検討した。新カリキュラムについては、科目間の関連性を考慮した授業計画等の課題が明確になった。
- ・新・旧カリキュラムの科目評価会議（3回/年）を行い、教育目標及びディプロマポリシーとの相関を評価した。
- ・卒業時アンケート、卒業生アンケート、就職先からの意見等をもとにカリキュラム評価を実施し、結果の分析を行った。卒業時の看護技術到達度の評価方法が不明確であるため、次年度検討する。
- ・未修得科目のある学生に対し、担任・副担任、実習担当教員による学修支援、外部講師や実習施設との調整を行った。
- ・実習目標が達成できるよう教員間の調整、実習施設との調整に努めた。
- ・実習ミーティングを定期開催し、学生の学修状況や実習指導における課題について検討した。

- ・病院職員の分散休憩により、学生の休憩場所確保が困難となり、学生休憩場所として下呂交流会館を利用した。
- ・新カリキュラムの学習内容をふまえた看護技術経験録を作成し活用し始めた。
- ・新型コロナウイルス感染症に罹患した学生、濃厚接触者となった学生に対し、自宅でのオンライン授業を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症に伴う実習ガイドラインの見直しと学生・実習施設への説明を行った。また、実習の中止や延期について実習施設と調整し、効果的な実習が行えるよう調整した。

**【課題】**

- ・新カリキュラム科目間の関連性を考慮した授業計画により、学びが積み上げられるようにする。
- ・卒業時の看護技術到達度の評価方法が不明確である。

**【対策】**

- ・科目評価での意見をもとに科目進度の計画を行う。
- ・卒業時の看護技術到達度の評価方法について、カリキュラム検討委員会で検討する。

3) 入学・卒業対策

資料18～19

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの応募者を確保することに努めているか。</li> <li>・国試の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。</li> <li>・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。</li> <li>・卒業生への支援を行っているか。</li> <li>・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。</li> </ul>	4. 4

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・ホームページの充実、学校見学会・説明会、進学ガイダンスへの参加等を行った。高等学校訪問は中止し、県内の高等学校に募集要項等を送付した。
- ・受験生アンケート結果から、本校の教育内容、学校生活の様子等について詳しく知りたいというニーズがあると分かった。次年度の学生募集の参考にする。
- ・受験生は昨年度より減少し34名だったが、定員確保には至らなかった（入学生16名）。
- ・国家試験対策（学生担当制、学生国家試験係、計画的な模擬試験など）により、18名全員が国家試験に合格した。\*全国の国家試験合格率は90.8%
- ・県内就職率は100%だった。
- ・退学者は6名（うち4名は休学後）だった。退学の理由は進路変更がほとんどである。

**【課題】**

- ・入学生を確保する。
- ・国家試験全員合格を目指す。

**【対策】**

- ・県内の高等学校訪問及びオープンキャンパスを再開する。
- ・国家試験対策担当を中心に、全員合格に向けた取り組みを継続する。

## 4) 学生生活への支援

資料20～24

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。</li> <li>・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。</li> <li>・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。</li> <li>・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。</li> </ul>	3.6

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・就職支援の充実を図るため、2・3年生に就職支援アンケートを実施した。
- ・個別面談時や学生からの相談を受け、就職、進学について助言した。
- ・2月に2年生対象に外部講師による就職ガイダンスを実施した。
- ・10月に卒業生7名の協力のもと「卒業生と語る会」を開催し、1・2年生（48名）が参加した。参加した学生から肯定的な反応が得られた。
- ・1～2月に学生生活実態調査を実施し、学生の生活状況を把握した。今年度はハラスメントに関する調査項目は校長が開封し内容を把握した。その後、全学年に対し、ハラスメント対応や意見・要望の回答を行った。
- ・総務課が授業料減免・奨学金制度の情報提供や手続きの説明等を行い、学生の経済的支援に努めた。
- ・定期健康診断や学生の体調不良時に学校医と連携し、学生の健康面の支援を行った。
- ・スクールカウンセラーによる「こころの相談室」を計画し、9名/年が利用した。
- ・11月に外部の相談窓口（岐阜県青少年SOSセンター）について学生に紹介した。
- ・9月に学内レクリエーション大会を実施し学生や教員が交流できた。
- ・3学年の縦割り交流活動（実習前のアドバイス、国家試験学習の取り組みなど）を行った。

## 【課題】

- ・卒業生と語る会を継続する。
- ・経済的支援を要する学生の把握・支援の継続。

## 【対策】

- ・卒業生と語る会を計画する（10月）
- ・面談結果・各種アンケート結果を教務係・総務課と共有し、学習支援、経済的支援を要する学生への支援を行う。

## 5) 教職員の育成

資料25～27

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。</li> <li>・学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。</li> <li>・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。</li> <li>・教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。</li> <li>・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。</li> </ul>	3.8

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・職場の課題について定期的に職場研修を行った。
- ・教員全員が目的に応じた研修に参加した。
- ・研修後の成果・学びの報告として伝達講習会を行った。
- ・新カリキュラム（地域・在宅看護論、老年看護学、小児看護学）の新規実習場所について3名の教員が臨地研修に参加した。
- ・教員全員が目標とした2回以上の授業参観と2回以上の他教員の授業参観を行った。
- ・授業研究は目標以上の4題行った。
- ・教員のやりがいと教育の質向上を目指し、教員ペア制を導入した。体制作りなどの課題があるが、教員ペア制に対する教員の肯定的意見が75%だった。

**【課題】**

- ・伝達講習会の開催方法について検討する。
- ・授業参観、授業研究、教員ペア制を継続する。
- ・次年度は新人教員1名が配属予定であることから、支援体制を整備し育成する。

**【対策】**

- ・計画的、効果的に伝達講習会を開催する（教務会議、季節休業中）。
- ・授業研究（2例）・授業参観（一人2回/年）、教員ペア制を継続する。
- ・教員育成支援のマニュアルを作成し、専任教員の教育体系を整える。

6) 管理運営・財政

資料28～29

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。</li> <li>・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。</li> <li>・災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。</li> <li>・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。</li> </ul>	4.3

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・予算策定、予算執行は計画的に行った。
- ・年間を通し、学生・職員に対して危機管理の取り組みを行った。

**【課題】**

・危機管理（人権・情報管理、災害対策、感染対策等）に対する意識の向上を図り、対策を周知する。

**【対策】**

- ・各種マニュアルの見直しと周知を行い遵守する。
- ・防災・防犯に関する訓練・講習会を計画的に実施する。

## 7) 施設設備

資料30～32

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっているか。</li> <li>・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。</li> <li>・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。</li> <li>・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。</li> <li>・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。</li> </ul>	3.4

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・施設の老朽化については、計画的に予算化と修繕を行っている。
- ・校舎裏の駐輪場を増設した。
- ・図書、教材、ICT機器関連は年度計画に基づき、計画的に整備している。
- ・校舎和式トイレの洋式化、学生休憩室、個別面談室等の整備は令和5年度着工予定である。

## 【課題】

- ・校舎、設備の老朽化が著しい。
- ・令和5年度に給水管及びトイレ改修工事が予定されている。

## 【対策】

- ・計画的に施設・設備の整備を行う。
- ・授業や学生の生活が確保され、安全に改修工事が施工できる。

## 8) 広報・社会貢献・地域活動

資料33

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。</li> <li>・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。</li> </ul>	4.0

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・年間を通し、ホームページの更新(20回)、閲覧しやすいデザインの工夫を行った。
- ・感染予防対策を講じたうえで、地域の清掃活動、講演会支援等のボランティア活動を行った。
- ・市内の小中学校に出前授業について案内したが、申し込みはなかった。

## 【課題】

- ・地域ボランティア活動を継続する。

## 【対策】

- ・ボランティア活動について地域、実習施設等に案内する。
- ・下呂市内小中学校に出前授業について紹介する。

## 9) 独自項目（寄宿舍）

資料 3 4

評 価 項 目	評価点
・ 寄宿舍の施設・設備は安全・安心が確保され、学業に専念できる生活環境であるか。	3. 6

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・ 寮生は合計 37 名（1 年生 12 名、2 年生 15 名、3 年生 10 名）だった。
- ・ 1 年生の入寮希望者全員が入寮できた。
- ・ 寮生活における感染対策徹底により、感染者の発生、クラスター発生はなかった。
- ・ 2 月に寄宿舍の防災訓練を実施した。
- ・ 2 月に寄宿舍入寮生調査を実施した。寄宿舍生活に対する意識調査では 1・2 年生の「不満・やや不満」の回答が多いのに対して、3 年生は「満足・やや満足」の回答が多かった。
- ・ 寄宿舍入寮生調査から、上下関係、寮規則、寮環境、寮母・教職員の指導等に関する意見が聞かれた。
- ・ 令和 7 年度からは共益費（電気・水道・温泉使用料）について寮生負担を求める方向で検討している。\* ガスは既に寮生負担

## 【課題】

- ・ 現代学生の特徴、入寮生数の変化等に伴う寄宿舍運営方法や規則の見直しを行う。
- ・ 社会の変化に合わせた感染防止対策と防災意識の向上により安全・安心が確保できる。

## 【対策】

- ・ 寮規則の見直し（電化製品使用、点呼等）を行う。
- ・ 寮環境の改善に向け、令和 7 年度以降の共益費自己負担に向けた取り組みを継続する。
- ・ 教職員・寮母は寮生の自治運営を見守り、助言・指導する。
- ・ 5 類引き下げに伴う感染対策の見直しを行う。
- ・ 年 1 回防災訓練を実施する。